

【第2部・第2報告】

大学生の成果発表
～消費者市民社会形成の取り組み～

消費者問題講義受講生グループ

弘前大学では、2015年度より、教養教育科目の一つとして消費者問題をテーマとする講義（学部越境型地域志向科目「青森の多様性と活性化―消費者問題の取り組み―」）が開講されている。これに加えて、2017年度より、人文社会科学部の専門教育科目の一つとして消費者問題をテーマとする講義（経済法律コース・企業戦略コース・地域行動コース特設講義「消費者問題の理論と実践」）が開講されている。これらの講義はいずれも弘前大学における消費者教育推進事業の一環として、青森県消費者協会の支援を受けながら、人文社会科学部の教員が中心となって開講しているものである。

このうち、教養教育科目の講義は、広く全学部の学生を対象とし、消費者問題や消費者市民社会に関心を深めること目的とする入門的な科目であるが、専門教育科目の講義は、人文社会科学部の学生がより専門的に消費者問題や消費者市民社会を学習し、実践的に消費者教育活動に参加することを目的とする科目である。この専門教育科目の講義は、2018年度は後期（2018年10月～2019年1月）に開講された。担当者は、福田進治（人文社会科学部）、保田宗良（人文社会科学部）、加藤徳子（消費生活アドバイザー、非常勤講師）の3名である。講義の構成は以下のとおりである。

- 第1回 イン트로ダクション（福田）
- 第2回 消費者問題と消費者市民社会（1）（福田）
- 第3回 消費者志向経営とマーケティング（1）（保田）
- 第4回 消費者志向経営とマーケティング（2）（保田）
- 第5回 消費者問題と消費者市民社会（2）（福田）
- 第6回 多文化共生社会における消費行動（1）（加藤）
- 第7回 多文化共生社会における消費行動（2）（加藤）
- 第8回 消費者教育の実践（1）―消費生活フェスタ参加―（福田・保田・加藤）
- 第9回 環境・資源問題と消費行動（1）（加藤）
- 第10回 環境・資源問題と消費行動（2）（加藤）
- 第11回 食品表示をめぐる諸問題（1）（加藤）
- 第12回 食品表示をめぐる諸問題（2）（加藤）
- 第13回 持続可能な社会への消費行動（1）（福田・加藤）
- 第14回 持続可能な社会への消費行動（2）（福田・加藤）
- 第15回 消費者教育の実践（2）―消費者フォーラム発表―（福田・保田・加藤）

これらのうち、講義の前半（第1回～第5回）は、福田と保田が、消費者問題、消費者市民社会、消費者志向経営などに関する基礎的・専門的知識について講義を行った。後半（第6回～第14回）は、加藤が中心となって、消費者市民社会の形成に関わる諸課題について、実践的・主体的な活動を交えた学習の指導を行った。また、第8回では、消費者教育の実践（1）として、青森県消費者協会主催の「学生による消費生活フェスタ」（2018年11月18日、青森明の星短期大学）に参加した。第15回では、消費者教育の実践（2）として、今回の「消費者フォーラム in HIROSAKI」（2019年1月26日、弘前大学）に参加し、この講義で消費者市民社会について学習した成果を発表した。この際、受講生は2つのグループに別れ、各グループで発表テーマを決めたところ、次の2つテーマとなった。

グループA：「国・企業から見るフードロス対策」

グループB：「プラスチックごみの現状と消費者市民社会」

いずれも、持続可能な社会のために、個人、企業、国、国際社会などの行動が問われる世界レベルの課題として、近年とくに注目されている問題である。併せて、消費生活と社会環境または自然環境の関係が問われているという意味で、消費者市民社会の形成のための課題としても重要である。発表の準備は第13回と第14回の2週間に渡って行った。必ずしも十分な時間があったわけではないが、それまでの講義により深まった消費者市民社会の理解に基づいて、各テーマに関する一定の学習の成果をまとめ、消費者フォーラムにおいて発表することができた。以下では、各グループの発表の要旨を掲載する（ただし、受講生が消費者フォーラムにおける発表の内容を踏まえて事後に執筆・提出したレポートを掲載するので、当日の発表の内容と一致しない部分がある）。

（福田進治）



グループ A 発表風景



グループ B 発表風景